

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2870701113		
法人名	医療法人社団 董会		
事業所名	妙法寺すみれホーム		
所在地	神戸市須磨区妙法寺字萬上畑742-2 (電話) 078-747-3838		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年7月21日	評価確定日	平成20年8月29日

【情報提供票より】(平成20年6月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤11人, 非常勤13人, 常勤換算14人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有() 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	315 円	昼食	588 円
	夕食	588 円	おやつ	84 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(6月25日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	9 名	要介護2	5 名		
要介護3	10 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.1 歳	最低	71 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団董会 北須磨病院、医療法人社団董会 名谷病院
---------	------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは住宅地域にあり、ホームの玄関前にある駐車場は広く、ここで運営推進会議のメンバーから提案されたオープンカフェ方式によるふれあい喫茶が開かれ、地域住民との交流の場となっている。医療機関がホームの運営母体となっており、医療面でのバックアップ体制は心強く、口腔ケアにも力を注いでいる。法人の特別養護老人ホーム、他グループホーム等との相互見学、研修等の交流を通じて認知症ケアについての研鑽を重ねている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の第三者評価での課題に優先順位をつけ、1階の玄関の開錠、居室の窓の全開、水分摂取の確保、介護計画の見直し等に取り組んだ。2階玄関の開錠に向けても引き続き話し合いが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価はユニット毎に全職員が話し合い、項目毎に職員が分担して記入した。最終確認のために管理者と職員が話し合う過程で自己評価の目的の理解が進み、利用者が主人公という想いが共有できた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	概ね2ヵ月に1回開催し、ホームへの理解、地域との付き合いが深まってきている。会議で提案されたふれあい喫茶の実施状況や前回の自己評価、第三者評価で表出した課題についてホームの取り組み内容などを話し合っている。運営推進会議への市の担当者の参加依頼等ホーム側からの積極的な働きかけが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	季刊の「すみれだより」で利用者の暮らしぶりや職員の異動等、また、一筆箋に健康状態等を書き加え家族に報告している。預かり金については、家族への定期的な報告とその内容確認が得られていないケースが散見されるので、全ての利用者に対して定期的な報告と内容確認を得られることが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	地域のふれあい祭りへの参加、トライやるウィークの中学生の受け入れ、近隣の高校の卒業式や小学校の音楽会への招待、ホームでのふれあい喫茶の開催等地域の人々との交流の機会作りに取り組んでいる。また、近隣の約700世帯に「すみれ通信」を配布し、地域のホームに対する理解啓発にも努めている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの生活が楽しく続けられるよう「人間としての尊厳や権利損なわず、その人らしい生き方を目的とし生き生きとした楽しい生活を支援する」という理念をホーム独自の理念として掲げているが、地域密着型サービスの家庭的な環境と地域住民との交流という役割を明確にした新たな理念を検討している。		新たな理念ができるだけ早い時期に作成され、地域住民に新しい理念が浸透されることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各ユニットの玄関に掲示し、内容についてカンファレンスやスタッフ会議等機会あるごとに管理者と職員で話し合っている。また、「子供扱いしない」「本人が望んでいる呼び方で呼ぶ」等利用者への声かけや態度に理念が反映されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のふれあい祭りへの参加、トライやるウィークの中学生の受け入れ、近隣の高校の卒業式や小学校の音楽会への招待、ホームでのふれあい喫茶の開催等地域の人々との交流の機会作りに取り組んでいる。また、近隣の約700世帯に「すみれ通信」を配布し、地域住民のホームに対する理解啓発にも努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット毎に全職員が話し合い、項目毎に職員が分担して記入した。最終確認のため管理者と職員が話し合う過程で自己評価の目的の理解も進み、「利用者が主人公」という想いが共有できた。前回の第三者評価での課題に優先順位をつけ、1階玄関の開錠、居室の窓の全開、水分確保の支援、介護計画の見直し等に取り組んだ。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のメンバーとして、自治会の会長をはじめ、民生委員、老人会会長、近隣の特別養護老人ホーム園長、地域包括支援センター職員、家族代表等の参加を得、概ね2カ月に1回開催しており、ホームへの理解、地域とのつきあいが深まってきている。会議で提案されたふれあい喫茶の実施報告や前回の自己評価、第三者評価で表出した課題についてホームの取り組み内容なども報告し話し合っている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>「すみれだより」・「年間行事計画表」・「運営推進会議議事録や案内」等を送っている。また、生活保護の相談も行っているが、結果報告の域を出ず、連携と言えるまでには至っていない。</p>		<p>神戸市担当課に対して、引き続き区内グループホーム連絡会の設立の協力依頼や運営推進会議への参加依頼等ホーム側からの積極的な働きかけが期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>訪問時や電話等で家族が知りたい事を把握し、季刊の「すみれだより」で利用者の暮らしぶりや職員の異動を連絡している。また、毎月一筆箋に健康状態等を書き、家族に報告している。預かり金の収支については、領収書のコピーを添付して家族に報告しているが、定期的な報告とその内容確認が得られていないケースが散見される。</p>		<p>金銭管理について、立替払い分は領収証のコピーを添付して毎月請求書と共に報告しているが、預かり金制度を利用している全ての家族に対して、収支の定期的な報告と内容の確認を得ることが期待される。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>訪問時には職員が笑顔での挨拶を心がけ、家族会ではユニット毎に分かれてお茶を飲んでもらいながら、家族同士で話をしてもらう等気軽に意見や苦情が出やすい雰囲気づくりに取り組んでいる。また、各ユニットの入り口にご意見箱を設けているが、今までに意見や苦情等はない。</p>		<p>ご意見箱の設置場所や名称の工夫等利用者や家族のニーズを積極的に汲み取る工夫が望まれる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員による継続的なケアを行うため、できるだけ一年以上担当している。勤務ローテーションもユニット間でヘルプに入るように組んで、異動時の利用者のストレスを少なくするよう努めている。異動は各ユニット1名以内で正職員のみとし、異動時は家族に伝えると共に挨拶も励行している。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新任職員には育成マニュアルにそって、その能力に応じて一定期間上司や経験者によるOJT教育を中心に行い、現任職員は認知症介護実践者研修や実践リーダー研修等必要な研修は順次受講している。また、法人内5グループホームのリーダーによる勉強会を開催し、夫々の段階に応じたスキルアップに取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内グループホームとの相互見学や研修、また近隣の関係機関への認知症ケアの相談等を通じて情報交換や新たな気づきを得て、サービスの質の向上に努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に管理者や介護支援専門員が自宅等を訪問し本人、家族と面接を行い、今までの生活状況や生活環境等をよく確認し、徐々に馴染めるよう配慮している。また、利用者には使用する居室を見せよう等ホームでの生活の雰囲気を体験してもらい、納得いただいたうえで入居してもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「共に過ごし、学び、支え合う」関係を日々の暮らしの中で築いていく事が重要と職員は理解している。そのために野に咲く花を見て共に感動し、時には料理の味付けを教してもらったりして「介護する、介護される」という一方的な関係にならないよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一緒に洗濯物を干しに行った時、入浴した時、利用者同士の会話、居室での会話等から一人ひとりの思いや意向を把握している。また、意志の疎通が難しい利用者は家族から情報を得たり、態度をよく観察して「本人はどうか」という視点で把握して、記録し職員で情報を共有している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は時には本人も加わり、利用者・家族の希望や意向を反映しつつ概ね6ヵ月間隔で作成更新している。必要に応じて、医師・看護師・管理栄養士等の関係者とも話し合い、それぞれの意見を取り入れている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>スタッフ会議等で状態に変化のある利用者について新しく気づいた点を話し合い、変化に応じて見直している。変化が見られない人でも、概ね月に1回程度計画の継続も含めて実情に即した見直しを行っている。見直しの内容については会議録に記録し、情報の共有化が行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制により医師や看護師と24時間の連絡体制を確保し、それにより医療処置を受けながらホームでの生活の継続が可能となっている。通院介助や定例日のお大師さん参拝の付き添いなど柔軟な支援を行っている。また、家庭菜園等趣味の活動の場も提供している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族が希望する医療機関での受診・受療を支援しており、入居前からのかかりつけ医が主治医となっている利用者もいる。協力医療機関及び入居前からのかかりつけ医ともいつでも相談できる関係を築いている。受診・受療の結果については必ず家族に報告している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に重度化した場合の対応や看取り介護の指針を説明し、本人・家族の意向を確認したうえで同意書を作成している。</p>		<p>本人、家族、事業所側の状況の変化の都度本人、家族、主治医等をはじめ関係者で対応方針を繰り返し話し合い、その内容を記録し、関係者全員で方針を共有しておくことが望まれる。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>トイレの希望時や誘導時の声かけは「ちょっと一緒について来てもらえますか」等、目立たずさりげない言葉がけで対応している。衣服の着替えも本人の居室で行う等本人の自尊心を傷つけないよう配慮している。また、たよりや通信に掲載する写真については本人・家族の了解を得ており、介護記録等の個人情報が含まれる記録類はスタッフルームの鍵のかかる保管庫に保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事、入浴、買い物等の業務のために、職員の都合を優先せざるをえない時もあるが、そのような時は利用者の意向を否定せず、状況を説明し、すぐ後で一緒に行動を共にするよう取り組んでいる。また、散歩、おしゃべり等日々の暮らしの中で利用者が主人公となるよう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には食材業者が献立を考え食材を提供し、ホームで調理している。利用者でできる人は盛り付けや配膳下膳、洗い物等をしている。また、月に1回程度利用者の希望による「お好み焼き」や「おはぎ」作り等を職員と一緒にやっている。		いつまでも作る楽しみを持てるよう、また一人ひとりの力が活かせるよう、利用者の希望による食事づくりを行う回数を増やしていくことを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は週3回午前入浴であるが、入浴順は日ごとに変え、通院等で午前入浴が難しい人は午後入浴で対応している。また、入浴を拒む人には職員を代えたり、異性介助を嫌がる人には同性での介助で支援している。		夕食後の入浴を希望する利用者もいるので、利用者の希望や習慣を把握し、週1回からでも入浴日や時間を固定しない個別の入浴支援の工夫が期待される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの役割や楽しみごとを家族に聞いたり、フェイスシート等から把握し、金魚の餌やり、雑巾作り、七夕の短冊作り等で支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や馴染みの喫茶店へ出かけた後、神戸空港へのドライブ等一人ひとりのその日の希望、状態、天気等の状況に応じて、外出が楽しめるよう取り組んでいる。しかし、自力での歩行が難しい利用者は、他の利用者に比べ外出機会が少ない傾向にある。		一人ひとりの希望にそって、全ての利用者ができるだけ均等な外出機会が得られるような取り組みが期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の第三者評価の課題でもあったユニット玄関の鍵は、職員でよく話し合い1階の東・西ユニット玄関にセンサーを設置することにより開錠し、終日自由に利用者が庭などに入出入りできるようになった。また、家族も訪問しやすくなった。しかし、2階南ユニットの玄関は安全上やむを得ず施錠しており、開錠には至っていない。		2階南ユニットの玄関の鍵も職員、利用者、家族等関係者で引き続き開錠に向けての話し合いを継続することが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災については対応マニュアルを作成し、年2回消火器の使い方や避難誘導訓練を実施している。また、米・缶詰等の非常用食料や備品類を備蓄している。</p>		<p>運営推進会議を通じて地域の人達との共同訓練を呼びかけるなど、地域との協力体制が築けるよう引き続いての働きかけが期待される。また、実際の災害を想定して、避難誘導の方法が身につくよう機会ある毎に職員で話し合ったり、時には利用者と共に実践してみることが期待される。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分摂取量については一人ひとりおおよその量を把握している。食事量の少ない人は医師の処方による補食やおやつで補ったり、食べるタイミングや声かけで食べてもらう工夫を行っている。また、訪問診療の医師や栄養指導の栄養士に専門的な観点から、摂取状況や献立内容をチェックしてもらっている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関前の駐車スペースに季節の草花が植わったプランターや花壇を配置し、大きなパラソルの下で利用者がお茶を楽しんでいる。食堂や玄関のひまわり等の草花、金魚やカブトムシ等の生き物等が生活感や季節感をうまく引き出している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カーテンとチェストはホームの備品であるが、仏壇、ベッド、鏡台、卒業証書等利用者のなじみのもの、大切にしていたものが持ち込まれ、空間は同じでも一人ひとりが居心地よく暮らせる個性ある居室となっている。</p>		

 は、重点項目。